（別紙の２）

自己評価及び外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に掲示し、各自確認している。 職場会議で終始するようにしている	昨年からユニット会議は廃止して、全体のフロアー会議で、情報伝達と合わせて事業所理念の確認をしている。理念は事務所の壁に掲示している。パート、派遣職員も含めて確認し合っている。また職員は個人目標を持っている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的にボランティアの活用を実施。 長野市	周辺地域との交流は今のところ難しい状態だが、長野市のボランティアセンターとの交流は深く、ボランティアさんの派遣などが積極的に行われている。	新興住宅地でもあり近隣との交流は難しい現状にあるが、施設のイベントなどを機に少しづつでも交流のチャンスがうまれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人組合委員さんへの認知症学習会の開催を実施		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1月に3年ぶりに照合会議を開催。今後定期的に集合会議を実施していき、サービス向上に活かしていきたい	今までコロナの感染不安もあり、対面での運営推進会議は出来なかったが、今年の1月には久しぶりに集合会議を開催することができた。今後オレンジカフェの開催検討など委員の意見を聞きながら進めていきたいと考えている。	今後運営推進会議で建設的な意見収集ができるよう、又災害時の支援なども含めて、メンバーの構成も再度検討されるよう希望します。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険や生活保護等に関してその都度確認の連絡をし連携図っている	包括支援センターとの連携は良く取れており、いろいろな行事の相談に乗ってもらっている。長野市とは生保の関係での連携が主流である。運営推進会議での指導も受けながら積極的に交流していきたいと考えている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に学習や毎月フロア会議時に拘束廃止委員会を開催し理解を深めている	法人のマニュアルはある。身体拘束、虐待についての研修をフロア会議の中で年2回は実施している。身体拘束や、虐待のないケアに向けて日々確認し合っている姿が確認できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様虐待防止関連に関しても定期的に学習資料の回覧やフロア会議時に学ぶ機会を設けている		

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年1回は理念等を含め学習する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書は入所時はもちろん、内容変更時は必ず説明し同意を得るようにしている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情はご意見を投函できる虹の箱が法人内事業所に設置してある	意見箱は投函がないので現在は使われていない。法人の行っている、満足度調査、外部評価のアンケート意見を見たりして改善につなげている。又面会に来る人もあるので直接意見要望を聞く機会はあり、検討材料になっている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催しているフロア会議時に意見集約をする機会を設けている	月１回のフロア会議で、職員の意見を聞いている。比較的意見は多く業務改善につながっている。職員意見は会議記録に残っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業環境の確認、様子の把握に努め必要に応じ事業部へ相談し実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的な面談をはじめ、必要な研修等へ参加促しなどを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内他事業所との交流学習会の機会を設け、参加促しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	行動観察、行動把握に努め、事前アセスメントを基に声掛けを行い不安を軽減するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込み時や契約時に困りごとの確認を行い、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居申し込み時や契約時に必要なサービスの確認を実施、入居後もその都度確認するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	役割を持って生活できるようスタッフ一同心がけ支援にあたっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要に応じ家族への連絡、場合によっては協力していただくよう依頼等を実施		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	必要に応じ、面会の調整等を行っている	近所との付き合いはあまりないが入所者同士の結びつきが強いので楽しく過ごせている。本人の希望で外泊は出来る。訪問理美容が2、3ヶ月に1回来訪し、18人全員の整髪を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂での席など配慮し、職員が介入して、なるべくみんなで話ができるよう支援している		

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族とお会いした際など挨拶、お話をするよう努めている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望を確認し意向の把握に努めている	入所時にアセスメントをして、把握している。又日頃の生活の中で見聞きしたことなど台帳に追記してサービス計画に反映している。利用者の観察はしっかりできているが、家族からの要望はあまりない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や家族来所時に確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体調に合わせ声掛けし、離床促しを行えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	昼間にカンファレンスを実施し、意見の共有、検討を実施している	フロア会議(月１回)、カンファレンス会議(月２回)をもとに意見をまとめ、ケアマネが集約する。日常に聞いている要望は記録に残して会議で検討したり、朝会などで伝達している。昨年10月よりリハビリの強化をして個別援助計画は現場で作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各勤務帯でその都度記録が行え、必要事項はホワイトボードを使用し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援、対応といったところでは、施設でできることに限りがあると、思い込む職員がおり、柔軟性には乏しい様子あり		

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍もあり、地域との関係性が築けていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診等、必要に応じ支援できている	近隣の医師が主治医となっており、定期的に訪問診療が受けられている。精神科・泌尿器科などは家族対応となるが、中央病院などの緊急受診については、施設対応もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護へ連絡、週一回の訪問等、連携が図れている、また診療所への相談も行え、必要に応じ往診をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	上記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴い、家族希望を確認しムンテラを実施し、方針を医師とともに決めたうえでターミナル対応させていただいている。ターミナルに向けスタッフ間で意見交換できている。見取り後のデスカンファレンスも実施できていた	重度化した時の対応についての指針がある。 看取りを受け入れているので、重度化した時は、医師からの病状説明と、延命治療の可否、看取りに向けてなどの説明をして、希望を伺い記録に残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応については学習会を実施し、少しでも不安なく業務につけるよう努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練、年1回の防災学習会を実施している	長野市の防災マップによると、千曲川の氾濫による水害危険地域である。フロア会議の折に防災学習会を開催している。一時的には診療所の2階への避難となるが、夜間、休診時の鍵の共有など課題はある。避難訓練は年2回実施している。	緊急時の避難について、診療所の協力が得られるよう方法の模索を続けていただく事を希望します。

自己	外部	項　目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	概ね行えている	尊厳とプライバシーについては、管理者は常に呼び掛けている。専門のビデオを教材に、接遇とプライバシーの研修をセットで行っている。フロア会議でも振り返り研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けしなるべく自己決定を促すよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間をずらしたり、入浴日を変更するなど柔軟な対応はしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容、整髪に気を付け、入浴後の衣類などは本人に確認しながら準備できている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の嗜好を確認したりし、お楽しみ給食の実施なども行えている	玉入れ投票で多かったものをゲーム式で食事のメニューに取り入れている。昼食は決まっているが朝、夕は職員が工夫して作っている。食形態はブレンダー、ミキサー、ミックス、刻みなど利用者の状態によって変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量の確認、排泄の有無の確認を行いながら、脱水予防に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後声掛け促しをし、必要に応じ介入している		

自己	外部	項目	自己評価（事業所記入）	外部評価（評価機関記入）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	なるべく洋式トイレへの誘導や、ポータブルトイレへ誘導を心がけている	座位保持が難しい人を除いて、なるべくトイレに座ってもらうことを基本に排泄介助をしている。排便コントロール、排泄記録をもとにそれぞれの排泄周期を見極めてトイレ誘導をしている。又問題がある場合は、訪問看護師につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールは訪看、往診時に相談し実施できている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日や時間の変更など柔軟に対応している	入浴を楽しめるように週2回の入浴を目指している。入浴拒否の人もあるがなるべく入浴というキーワードを使わないで誘導するようにしている。それぞれのユニットに風呂はあるが1丁目のユニット側にリフト浴があり共有している。リフト浴の無理な人には、シャワー浴対応である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各自の疲労度を確認し、その都度臥床促しを行えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服状況の確認、必要に応じ介助にて内服し、状態の報告を訪看、往診時に行えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションをはじめ、余暇活動の充実が図れるよう声掛け、実施に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍もあり外出がほとんど行えていない	コロナの影響で今まで外出については、制限をしていた。ただ家族が希望すれば外泊は出来ていた。又家族が外食に誘うこともあり、人によって差異はあるが、外出は希望に沿っている状況である。	

自己	外部	項　目	自己評価（事業所記入） 実践状況	外部評価（評価機関記入） 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出の機会がなく、施設内での金銭の必要もないため現在は所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時、電話連絡、テレビ電話の実施を行えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適に過ごしていただけるよう清潔に心掛けている。	利用者と職員が協力して作った作品が廊下の壁に展示されて心和む雰囲気である。それぞれのユニットで工夫されている。食堂もゆったりしていて、楽しく食事が摂れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂のレイアウト、席等配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室をはじめとした、生活スペースの環境整備に努めている	居室は基準どおりの広さで、収納は比較的広くとられておりきれいに片付いている部屋が多い。あまり大きなものの持ち込みはなく簡素な雰囲気である。清掃が行き届いており、食事後は自室でゆっくり横になる姿が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立支援が行えるよう、役割を持って生活が送れるように日々カンファレンス、声掛けを行っている		